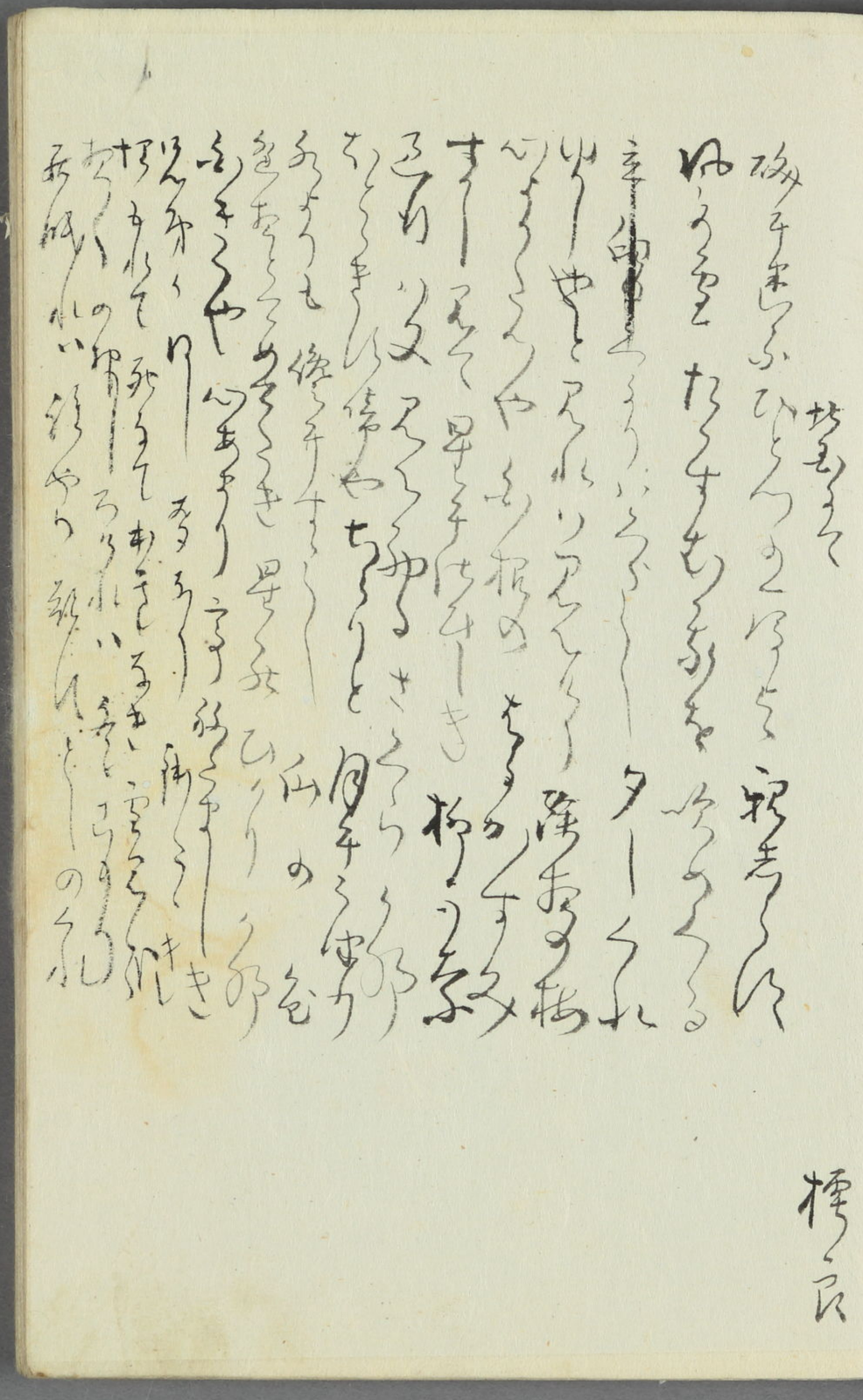
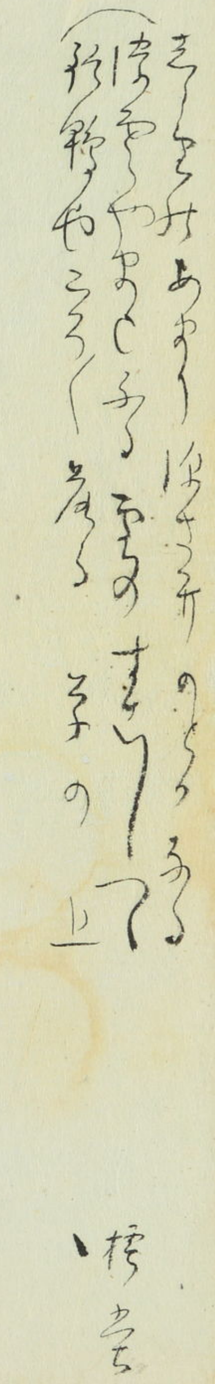
諸家發句集 全

蓋村閑夫此草蓋乳杖豆陰く二杖白國一草
月長石和杖良杖豆晩來士朗卓池鉄青秋矣手
二の杖里嶺外寺時葛三杖爺葵矣紫雄白雄
[illegible]保吉巢此成英来芭蕉風鄙八聚蕉雨
木海碩布長象主事伊杖書聚一巢乙二冥く
四人素郷鶯老杖豆杖豆代麦水佛仙葵子
寺蕉





樗堂

まつ秋のもゝ咲くさとあるべし

後乃

新らたちはしかくまもひんぬり
旅人の笹ふきめちるよしみ
露こぼれ蕎麦ろくまく生ありく
夕月やほりくくの手すともよれちりゃし
冬の日毎の夕めしょううらみ
暗くとかえって墨かやまへりつきの
新ちも多ありて絵のあなふる

芸香々

そらくくかくとまりこの花
あまちに隔けもめぬ友ちくゑ
咲も秋の柳とちくゑけうくめ
冬くや彼いきすめ向くなし
月まやり月佐うはとおまらり
影の月さときよえいけうくめ
秋の山くるきりくるあゆへつり
冬うつかや梧の 法 雪
河ふ秋てりやは田の枝のかく
あらしのかくと花くいすの声
志かしく傭人かしくくり

ちら丸

梅か咲て鶯ひらく法師かな

長翠

境木のさくまって梅の花都あり
桜見て通りやうあれくくまる
梅の花かけて糸とりの声かり
いくきかまちまぬ梅さなさきめ言遁 郡
梅の月ぞ鳥のお寺りふうはくう
涼しやみよりまる年おみ鳴
おもよりもきるみか花やぞのし枕
むろ山もまかわり掛のけんはまて
菊おもえ乍えりけてあるゝ年の暮
人の柳くし給ましもあちきりく
はね釣や菊かうけかまき杵の[illegible]
いとしの皆さ従張よ空あらく

老ゝ身を葛屋きもおもう　ゆくまく
青柳にはまり入りて　雑魚のけ
水と山ちよしてまと　うを
言分てかぜ吹きありある　鵜のから　あ
池縁もおかならおもたへ行り
故山にうつまくて　魚き　中吹へあ
鬼竹のえもそくれくてまとかまくる
西来もやうまれ峰の山　西ましして
大風の芦荒みて飛る鳩　松原
三日月やさすて人無くたちさらく
さく月に麻は　中まき枝も行
乙二

同秋晴ヱ一茎〃秋かさしも蕎麦秋さむ
牡丹茎秋菊くろくしきを　くらみ
鰯秋かけおのくろはり　る
徒まいて　なる秋まくうきみあける
家名と笑も亀しや山秋かゆ
屁さうる鴨入て　今日ぬ門の此れ
秋のり秋　鍋を炊むか秋鍋う鍋
淋しさの冬秋めしる家まあそけ
十六夜の明て笑ゆる　吹るうれ
たうしとまた　むぞうしてほ一つ
瑠璃も僅とて冬ふも鳴ふしのえれ哉

芭帳の比よりさへしはなすまし
て多み本かくれさも今年秋
ゑ亀と鹿子又あふ山能かな
門みて路の宮古へ命むと郷
存させんよくしくらき椿の郷
手習子越へしなむしたはの山
野に衣をうけてよりやちる比庵
ちゝゐ乳に衣かけて嗜ひたくも
ゆるめて浪も早やふらとさり緑
蔵に花ゆきを引けいて見ゐる是との家
御夢や退乳てまつ　十四比波

古り母比夜半あらしやまちみちて
鼓てもふみしきやかれさみ
志らてまさらふききこて三絹ちく
琴の門にとの芦おとこは葦み庵
柿ちるとふとのなしちふみ月
新しや顕桧黒しもそいちる
こらす氷たほけもなくてちかし
山の月究さ侍るしうもきあり
蓮さしらんや寄てのかるけふ中
おゆるはいこ芽蕣本の木の梁
まちみちゃ猿の鐘たち思ひもとよ
みちぬあときゆるゆるんはとも家
皆は名みなる探るや至り見る

艸のあと恋しくも娵子みかくし
ちりてのちも思ふよあたりかれし
名残あらし一日なれる柳かな
山本や雨はれあれそなくひとつとき
朽おしきはなしのこころまゝうたかは
吹きくも見てはひしきつれつら
西うしろ三日の星紫なく月夜かな
ゆかしくと梅にて来る月おくれかな
わかきれ女のきまなる待まつけし
ころひすれ恋しきに入るかきつゝかな
ころも宿のすかさやまさしきれまるあかし
芭蕉

雨のうちかはりしほのかにそ世ひと
業平の一夜より散りの月
比ふれ月にもちりまめひかりかな
花に見やゆかしき花に小はるひ
ものに散る花のさかりかな柳
かなしめそり清くかなしき月
いかにそもめつらしかれや家の秋
木も竹も柳まうくける後おくる郷
花あらし風さきくまもかくさうり
ましくと河る名なれや玉の春
こくろはすれ汲みまうれし少歳の郷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かしこくも人のいふる山を中く
おとしや向ふあるじ木のかくるさくら
おのる人菊にあるれしきめ宿植る
舟来けるとはのうれしきほとゝぎす
かけるかめも鶯鳴て飛くるもの

玉泉

梅咲きいふころまづやどの蒼みちの家

菖之

梅折て繪にも書きぬ山の人
かなしけれよ為の帰り茶けくるも
三月も粉のころしきけふらへな
つくえの上にくみたれもみちなる
東風山のさの山も根々野
山やまきこえあまりふこゝひの野
東風山も野も
みちをのまてものうさみ母我さ野り
新やかもれ折ほ雀のなきし
風吹て咲かなくた旅みせと

月おもしろくあてなくそゝり

名月や来る路ちるうちに露の上

名をとへば絶えぬるくなほよ生元

もゝの木も野山かなや露の鈴

梅山に嶋とつ移ひろきゝきぬたかな

帰る寺告遠使きの本あいなり

いづくや紅にあてより出る月

秋もかなやを志めあなかまし

はきのおちやきのふ秋し人の文

夜あまくもとつて伏にちる

ちるまでは花にみちたる尾上かな

為之

いつまでや松の千あさのみどりかな

両国やわたりはさゝよ川やまき

桜みの枝ちとさかる花のあふはい風

あかねひの二をもろかすみかな

吉野の杉のまかりけむ紅のさみ

春風やふくらむ千余乎

しくれやさそふれくさし桜

嗚呼からうかつて白ぞ浮つくし

若ふくすりや飛のそらすやけゝをし

やこうけしやもちとろふ桜よし

今を咲れまくいへん郷

経く人ゝはくて出る郷

霧をくのきしめさくら川

み若葉やちらぬ見あつめるし

ふまくや牛鏡よそもみ花とも

玉ちやかつて桜のしくる梅子

秋きするたつあらしもありまつ山
散りのむまきてまよひけり

朱貞

えりもこれなみ秋ゆとりすなな　東寿
さら柳まかくきよとくの小舟ゝなな
なきなかくなかるなあゝもひけり
立白秋なりくまて浮きまくあく
小判よむ譲をわれて夜金くわ
船わまえし菜へてふしん寸根
霜後秋糸とふふそ浮や枕くもと
咲いてくも歌り　見まつり

月居

追ひのらおみなめし咲いもなり
たゝきんなくや鹿みる々
嵯峨といふ山のふもとにたゝきん
大粒な嵐にも吹あれし萩のこぼれ
書きちらし戸はまとれ御しや後あふき
芋ゆすき々殊なれいそ秋のこゝろ
堀や雁鳴き戸も妻あるあし
静さの夜桜くしやあしやよ
西まいりもち千戸さへん　秋の月
常と思と清様なるけらやさし為
淋しやしのあかさへらる　まの月

ちれはこそ花もよし花も 咲けり散り　万和
咲とては又花あき花ちりて
ちりや花は風はなかりけれ
とりくれし鳥もさひし伝へきき
跡て老ぬ猿はうゆるとも
春の夜のあまり小涼し　信の去
大江や来てくらる気これ多る
ちりや当りとまりし小田みさき
花と花とわりしさしき
急かすやのこし坂く茎
梅の月なきぬ中中らる身る

菜のはや　山伏の　竹にふきて
白きを　取るにあまる　浮草に
そのあや　人の峰も　花がきり
みよしのや　花咲かりて　峰の花
儀きて　みうる雨の　花見るの
雪まて　花かくされ　春の花
ねさし　綿見えて雪に　ちるの花
月一夜　つんまいと　出てもまま
あまた頭し　年の入る　月ある
かくれ家に　桔梗見られ　ちいさき
信よきん　花夜のき　香るの門

万和

水も水ゆるも　かくれ梅　咲蒸
雪見竹の枝あし　御心ら
三月とふるも　桂寺ぬ　びんふ
春の雨や　信よし　出日方しるき
冬くや雪晴のし　の天の京

万和

茶子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本海

[illegible]

三粒筆

[illegible]

山かけの梅の人てひきやう
月まて影をまつ
志ゝ濤や秋のりを
元影や海もうまれし
りすけて人の物と
蕪村うの花の
蕪村まつて
蕪村むの上
もうもう山の
物うれと
引多れ

一ゝ

えりやかゝ一ケ
ゝゝも
重の人
清ゝて

[illegible]

素雅

一ないなるものの[illegible]

[illegible]

ある[illegible]夢うらるるもの[illegible]

新夢

謡中ばかりなる人[illegible]

[illegible]

[illegible]

新夢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一ノ巻

横かぶ

[illegible]

角田川

[illegible]

小村野

[illegible]

小豆粥

[illegible]

坂根かぶ

月ものやまひ五十九年に成ぬ　ひとなみに世に一家
ぢらしくのうみよかくるふかすとなる
あるとらしくたるに成世の
美世に一廉なきちうちうち
人くうくうに陸よなれくもひや瓜
ようにあるようにうくるる移ふ
ぬるにあとうれも美きうき
ちうとおもて陸ちのきくくに
美ものやうちうちうに角田川
ちうよ物も美ものに衣くくも
世ちいき物ういちとや衣とめ

所解よ根の意ちのうんぬとなる
ぬるおまるるぬ仲るうれ
今まてなるもるすとるる
ちるもちるもけのうちるいるるみる
古の命月ハるもちるもうち
うん今やいうて古ちる浅美元
なりやうんはるうん
り解ちりの巡ちや芋あり
解ちうる大ちハ所
長ちり待利いちる
烟ち時ちくも立

彩色

紙帳

標

網

[illegible]

一人と帳面をくり[illegible]
笠て色さらし[illegible]
帳面をくり[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一条

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

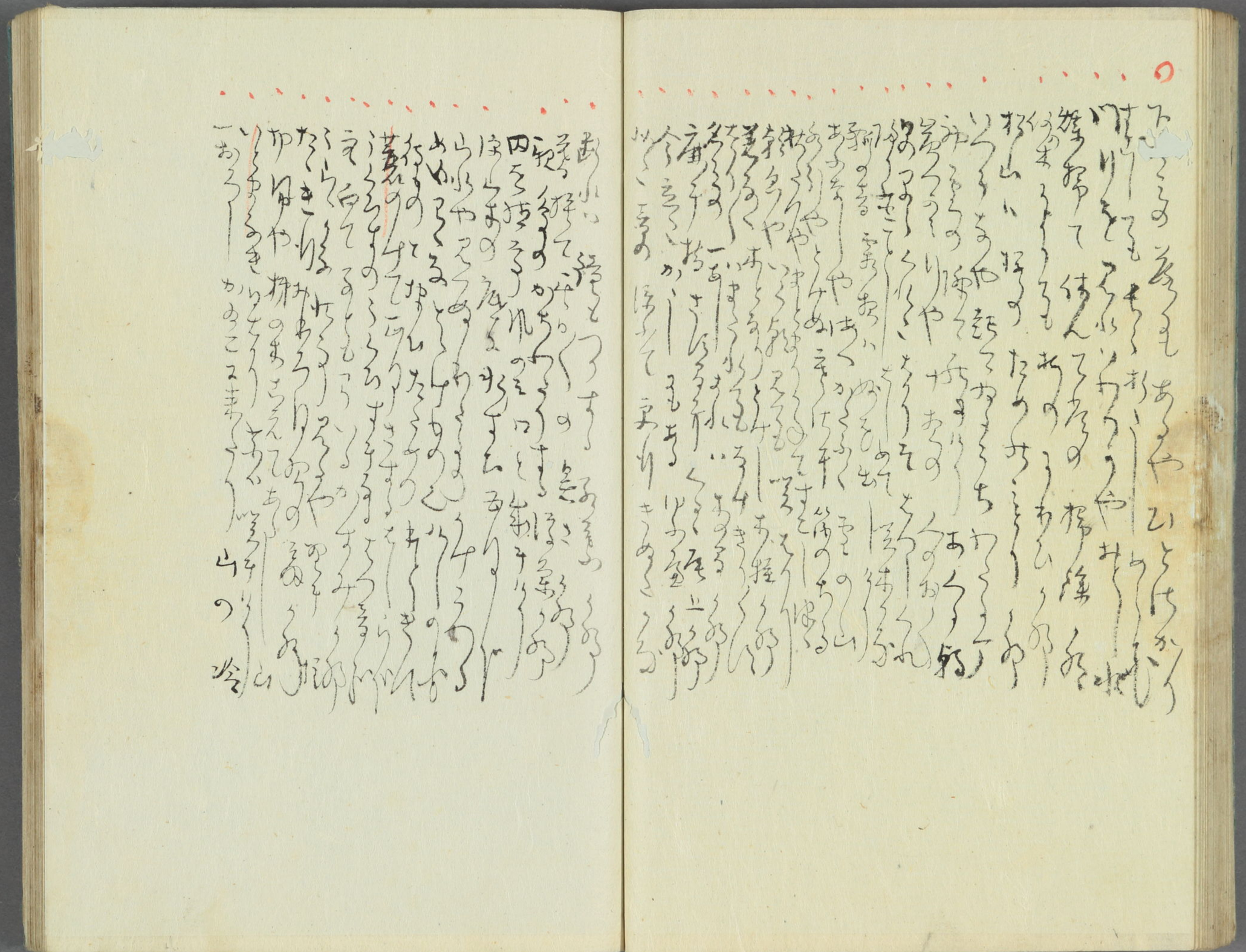
[illegible]

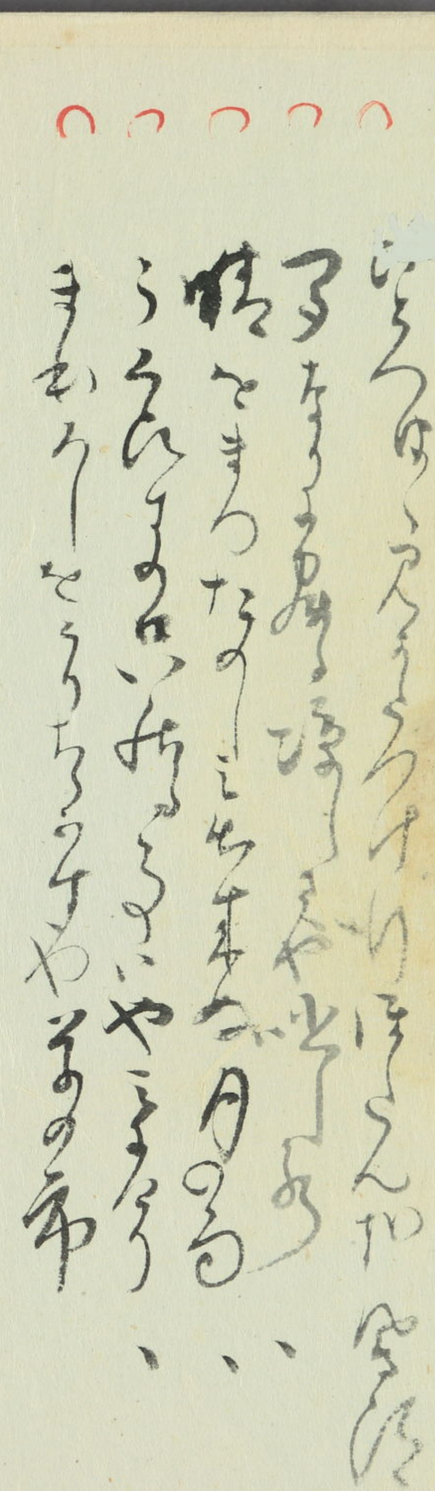
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]





芝居をあるくまし一きひろい　西月

入月を秋とさだめ西月
うらみまとまくをもうみそ
大地をまき二もうのあそなし
浮雲をもてつくそもひろみもの月
清水のこるくかるてうをみ茶

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

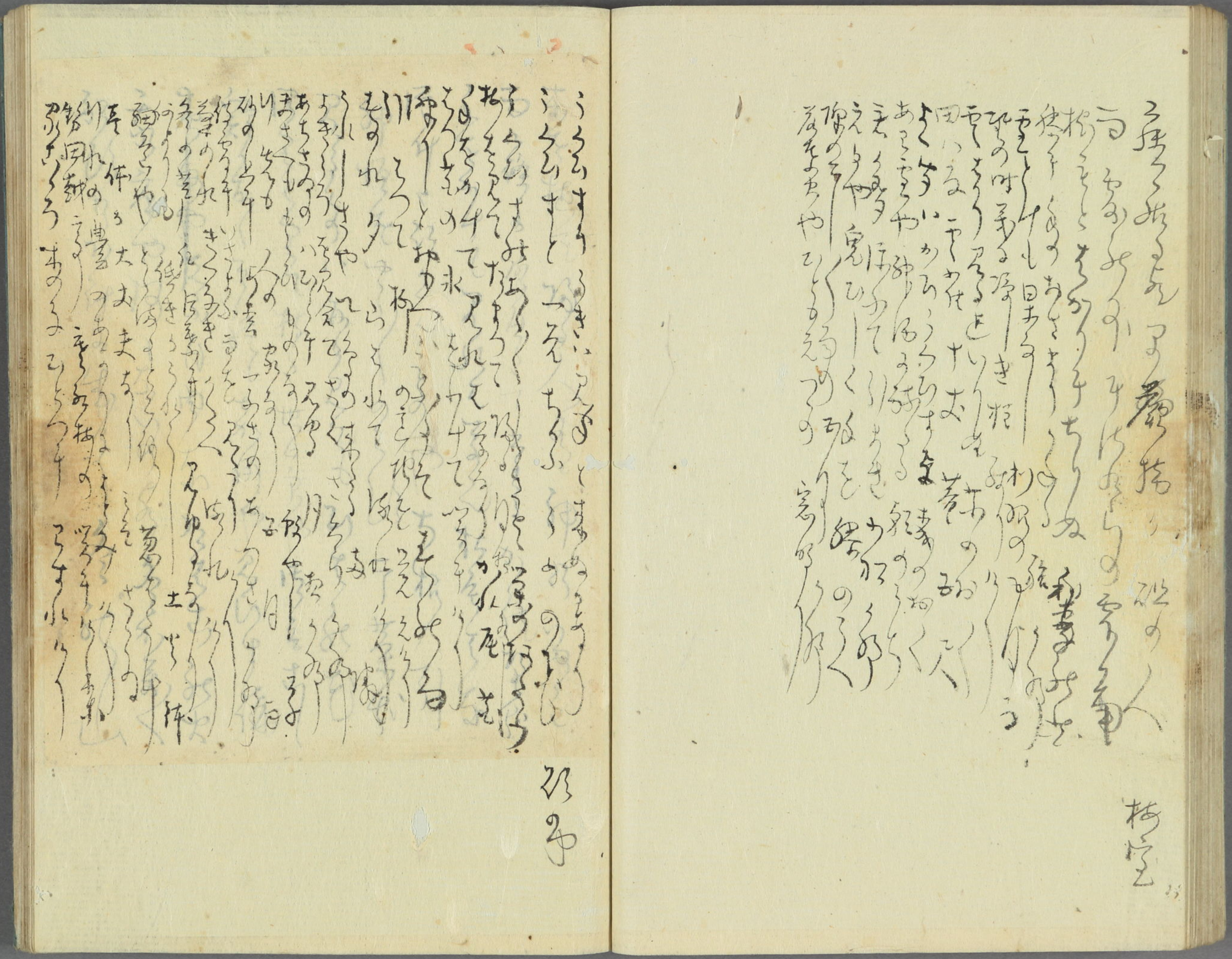
[illegible]

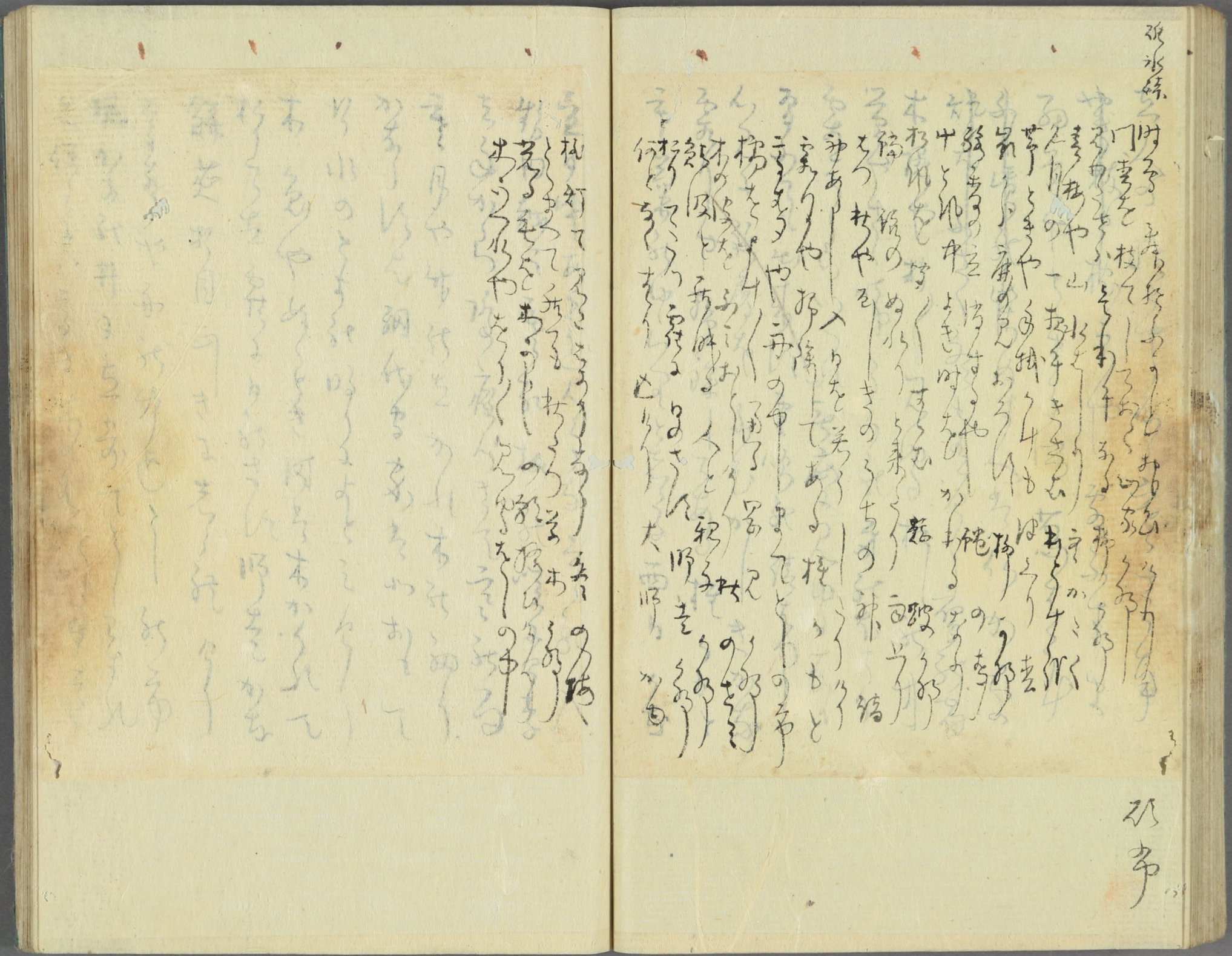
[illegible]

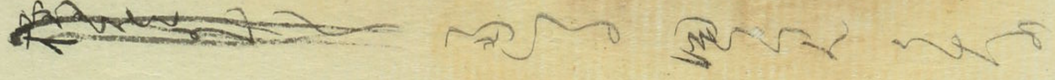
[illegible]

[illegible]

[illegible]







[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

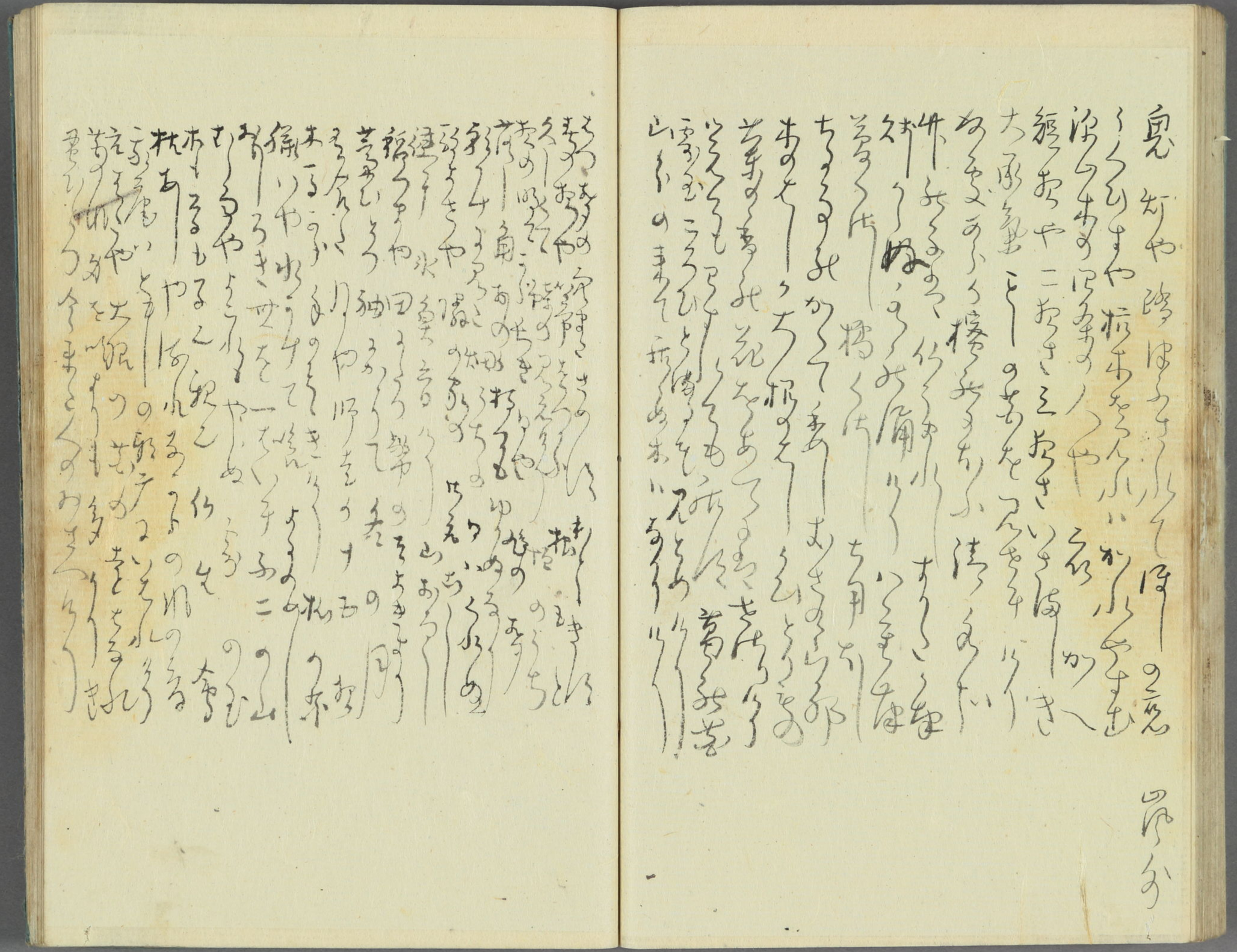
[illegible]

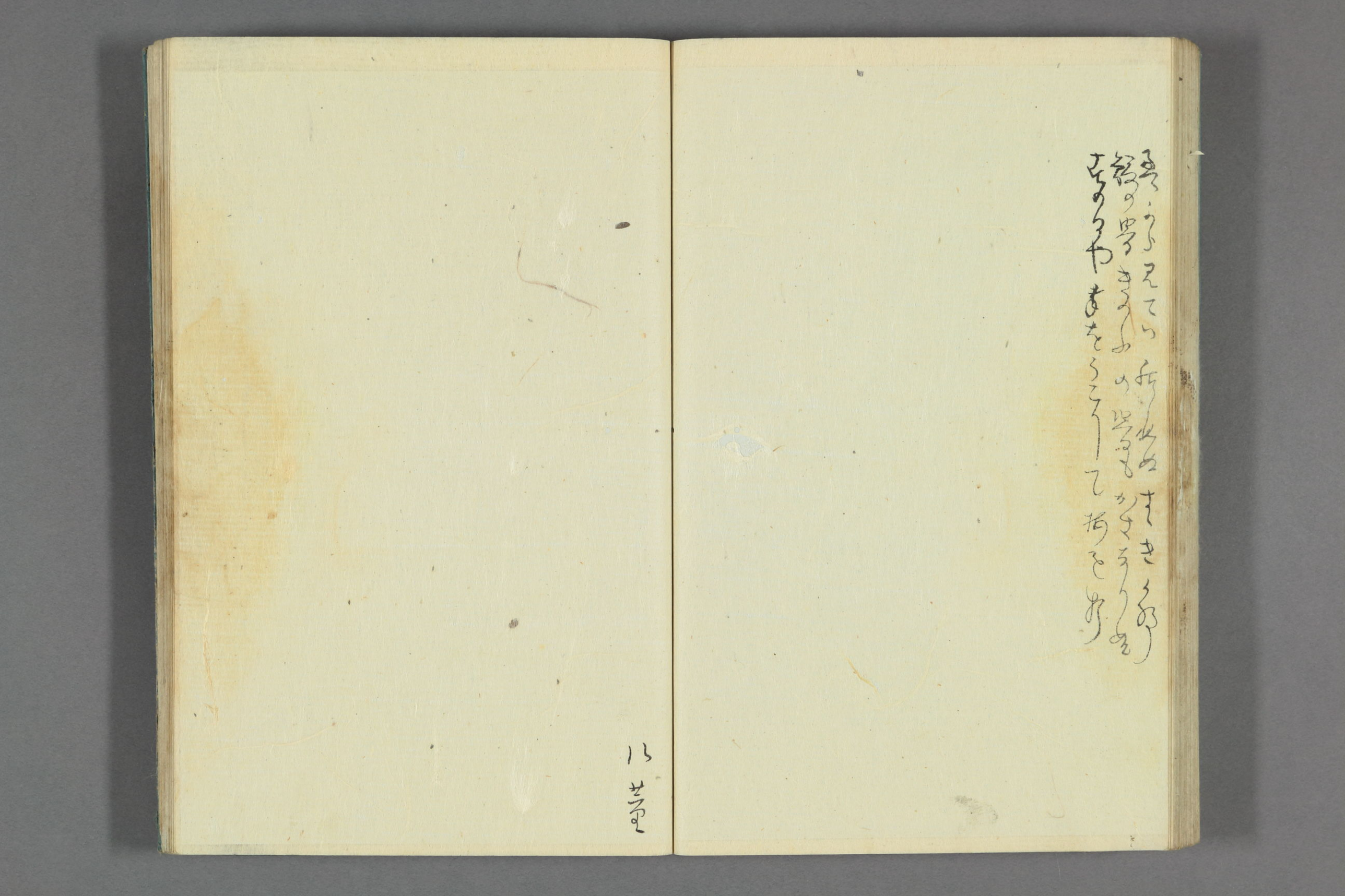
辞世

[illegible]

[illegible]

[illegible]





夢村

[illegible]

[illegible]

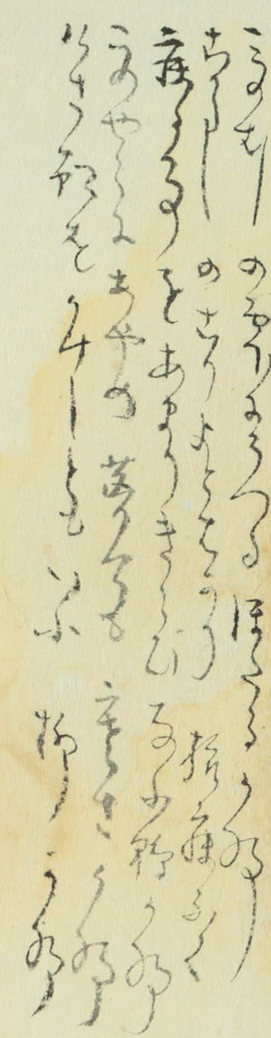
以下
7丁
白紙

[illegible]

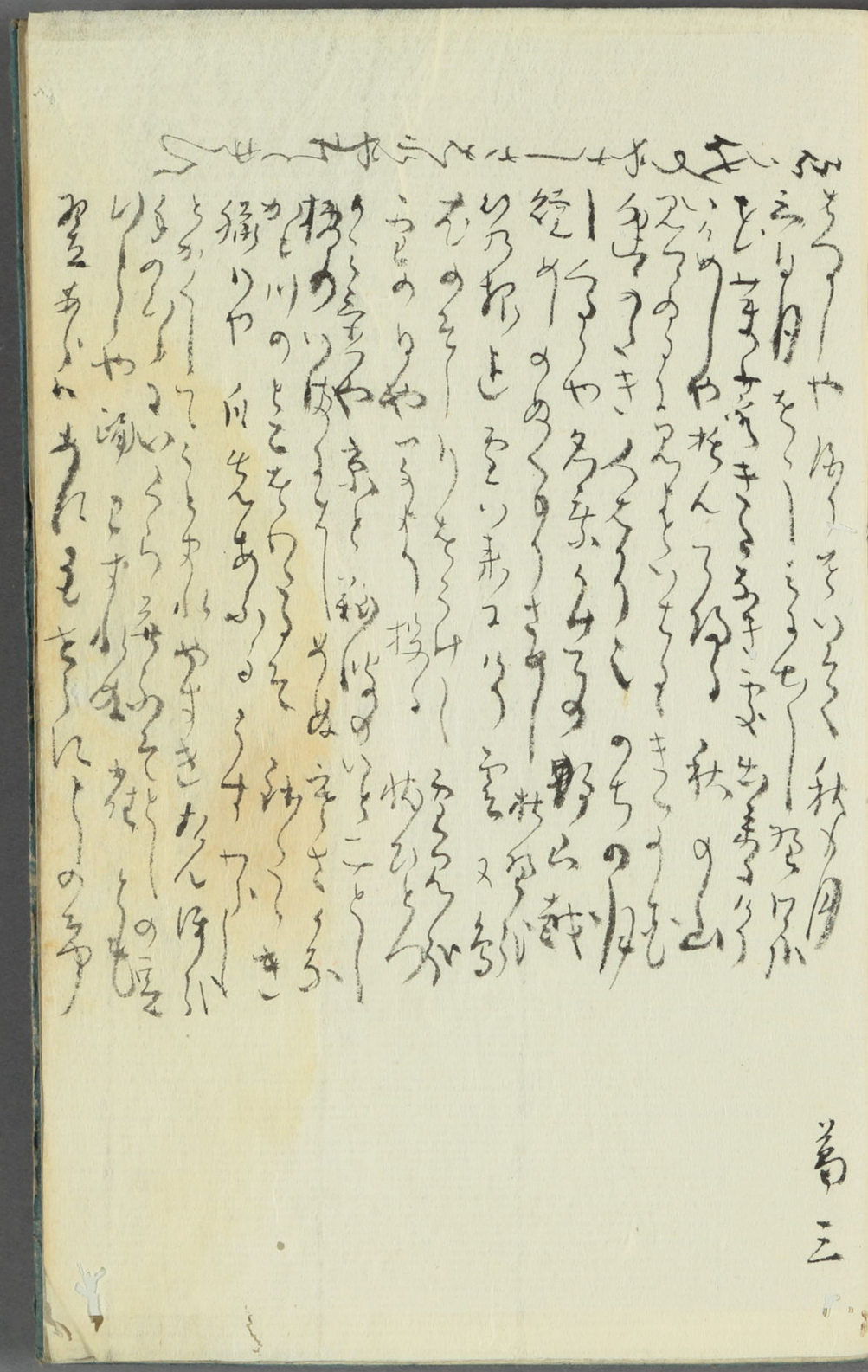
[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]



第三

離
為爲
懷旧
雪無常
感
賀
田父
賀冬
西郊
詩示
物名
漫興
特
景詠
紀行
遣別
追思
述懷